

世界エイズデーによせて

那覇市立病院 総合内科 湧川 朝雅



12月1日は何の日か知っていますか？世界エイズデーです。世界エイズデー（World AIDS Day）は1988年にWHO（世界保健機関）が世界的レベルでエイズ蔓延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として定められました。

3点について説明します。

1. 沖縄県の現状
2. U = U
3. HIV 感染者に対するスティグマ

1. 沖縄県の現状

表1に示すように新規エイズ患者数が、2021年から沖縄県が残念ながら一位になりました。近年感染者数が増加している梅毒などの性感染症とHIV/エイズとの関係が密接であることも考えると、我々臨床医が外来や救急などで遭遇する可能性は以前より高くなっていま

す。実際、当院の救急でもHIV/エイズ患者に遭遇することがあります。例を挙げると、若年男性、呼吸困難感、持続する発熱を主訴に来院され、胸部単純写真で両側に淡い陰影を認め、胸部CTでは両側肺門部中心にスリガラス陰影があり、ニューモシスチス肺炎を疑わせる所見を認めました。追加問診で同性愛者であることが判明しHIV検査は陽性でした。

2. U = U

HIV治療を受け、血液中のウイルス量が検査で検出できない程度に最低6ヶ月以上継続的に抑えられているHIV陽性者からは、性行為によってHIVが感染することがないことが確認されています（図1）。このことをUndetectable（検出限界値未満）= Untransmittable（HIVに感染しない）、略してU = Uと呼ばれます。根拠はPARTNER1およびPARTNER2研究、Opposites Attract研究

表 1

新規エイズ患者報告数（2020～22年）

	2020年(令和2年)		2021年(令和3年)		2022年(令和4年)	
	自治体	人口10万人対	自治体	人口10万人対	自治体	人口10万人対
1	大分県	0.70	沖縄県	0.68	沖縄県	0.61
2	沖縄県	0.69	福岡県	0.49	熊本県	0.52
3	東京都	0.57	岐阜県	0.46	東京都	0.38
4	岐阜県	0.45	東京都	0.45	茨城県	0.35
5	岡山県	0.42	徳島県	0.42	福岡県	0.33
6	徳島県	0.41	愛知県	0.40	鹿児島県	0.32
7	鹿児島県	0.37	佐賀県	0.37	愛知県	0.29
8	山梨県	0.37	大分県	0.36	広島県	0.25
9	山口県	0.37	青森県	0.33	埼玉県	0.23
10	神奈川県	0.35	岡山県	0.32	奈良県	0.23

※報告日に基づく集計

出典：2020～2022年エイズ発生動向（厚生労働省エイズ動向委員会）一部改変 <http://api-net.jfap.or.jp/>

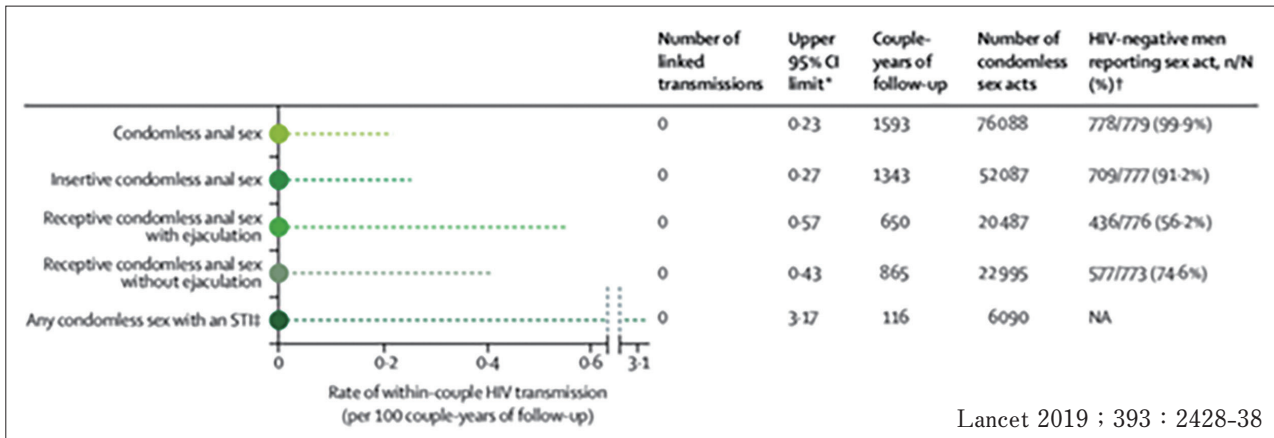


図 1

の3つの国際的大規模研究があり、それらを合わせると、合計約130,000回のコンドーム無しの挿入を伴うセックスが実際に観察され、ウイルス量が継続的に検出限界値未満に抑えられているHIV陽性者からは、一例もパートナーへHIVが感染した症例は認められませんでした。

U=Uは患者にとってもHIVの従来の捉え方を大きく変えることになりました。

U=Uは、HIVに感染しても陽性者はHIVに感染していない人と同じように性行為を含め日常生活で他の人に感染させることはなく、日常生活を送ることができることを明確に伝えるメッセージです。これまで感染予防のために「行ってはいけない」などとされていた制限がなくなると、精神的な負担やその他の負担から解放されて、選択肢の幅が増える可能性があります。そして陽性者の生活の質(QOL)向上につながります。実際に、陽性者やその家族にU=Uを説明すると大変喜ばれます。家族に気を遣ったり、感染させる恐怖や感染する不安などいろいろな感情に今まで押し潰されていたと話す陽性者やその家族もいます。

しかし、一般の方々にHIVに関する正確な情報や知識が十分に伝わっておらず、有効な治療法や予防法がなく死に至る病と考えたり、容易に感染する病気などの認識にとどまっている場合が少なくありません。そのこともHIV感染を心配する人々を検査や治療から遠ざけたり、一般の人々からの差別や偏見を招く要因の一つにもなっているのではないかと思います。

3. HIV感染者に対するスティグマ

HIV治療の進歩に伴い、HIVに感染しても早期発見及び早期治療によってHIV陽性者の予後は改善され、非HIV感染者と比較しても平均寿命はほぼ同等となりました。その結果、今まで以上に社会の一員として生活を営むことができるようになってきました。しかし、HIVに対する差別や偏見(スティグマ)がまだあることも事実です。就労など社会生活で不利益を受けるケースもあります。医療の面ではHIV感染症がコントロール可能な慢性疾患となり、主に生活習慣病や悪性疾患のマネジメントが主となっています。平均寿命が伸び、HIV感染者の高齢化が進み介護や施設入所が必要な人もいますが、沖縄県を含め全国的にHIV感染者を受け入れる施設は多くありません。沖縄県では介護者や介護事業者に正しい知識を持っていただき、感染者の受け入れ推進のために研修会や啓発運動なども行われています(沖縄県のHP参照)。大事なことは、他人事ではなく、自分事として少しでも考える・向き合う姿勢が大事と思われます。

「HIV陽性者も一人の人間、ただの慢性疾患を持った患者だよ」とある医師が仰っていましたが、その言葉に尽きると思います。

HIVの正しい知識を持って、U=Uを伝える・広げることは、感染者の福利・生活の向上だけでなく、社会全体のHIV/エイズに関する偏見や差別の発生を未然に防止することに繋がると思います。